

令和6年度第3回「知事と一緒に生き生きトーク」発言要旨

- 1 テーマ：特産品を活用した地域づくり
- 2 日時：令和6年6月5日（水）13:30～14:50
- 3 場所：カフェ麦（高梁市宇治町宇治 1831-1）
- 4 参加者：おかやま元気！集落関係者、地域おこし協力隊OBなど5名
- 5 知事挨拶

特産品の開発・販売を活用した地域内外の交流や地域産業の振興など地域づくり活動に取り組んでいる皆さまから、今後の地域振興に必要な取組や課題解決に有効なアイデア等についてお聞きしたい。

6 発言内容等

【自己紹介】

- ・平成24年に耕作放棄地解消を目的として宇治雑穀研究会を設立し、平成29年に一般社団法人化。現在は、多くの方に食べてもらって地域を元気にしようと、会員26名で主力商品である「もち麦」の栽培や、もち麦を使ったビールの製造など、栽培・加工・販売までを一体的に行う6次産業化の取り組みを行っている。
- ・井原市大江まちづくり協議会では、「健康で笑顔の絶えないまちづくり」を目的に、地域の小学校での出前講座の実施や、休耕地を活用したニンニクとウコンの栽培に取り組んでいる。先日のガーリックフェスティバルでは、1,000人以上の集客があり、大江のニンニクの知名度が上がったことを実感した。わずかではあるが、謝金をお支払いすることで、地域の高齢者の生きがいつくりにも寄与している。
- ・県から岡山県中小企業団体中央会が運営を受託している岡山フードバレーセンターのコーディネーターとして、県内食品事業者向けに原材料調達や販路開拓支援、加工の斡旋などを行っている。昨年度、新見市草間地域で黄金桃とピオーネのコンポート制作にアドバイザーとして参加し、県内百貨店との商談が決まったところである。
- ・高梁市吹屋地域で栽培されたトウガラシを使った柚子胡椒等の製造、販売を行っている。平成24年に地域おこし協力隊として大阪から移住。令和4年に法人化し、吹屋に直営店をオープン。当初は200個だった生産量が現在は4万個まで増えた。現在、赤色の柚子胡椒を使って赤の町を盛り上げる取組を行っているところである。
- ・地域おこし協力隊が行う特産品開発や販路拡大を支援している。また、個人的な活動として、起業志向を持つ学生の支援を行い、商品開発を希望する学生と人手やアイデアに悩む農家をマッチングし、新たな商品開発に繋げる取り組み等を行っている。

【今後の取り組み・課題など】

- ・月曜日に 30 食限定で、もち麦を使ったランチを提供するカフェをオープンした。今後は、販路拡大のサポートをしてくれる方に協力を仰ぐなどして、もち麦のPRをしっかりと頑張っていきたい。
- ・ニンニクの収穫には、かなりの人手が必要。関係機関の支援により、地元の小中学生や岡山市内の高校生等が来てくれることになり、大変感謝している。また、ガーリックパウダーの売上を増やすため、地域おこし協力隊の方にアイデア出しをお願いしているところである。
- ・中山間地域で開発した商品を販売できるルートを作っていきたい。地域の方には、SNSを活用した特産品のPRもしてもらいたいが、SNSによる発信ができる人が地域にいないという課題もある。
- ・100 円の鷹の爪を加工と販売をセットで行うことで、500 円以上の価値が出た。生産・加工・販売の工程がバランス良く必要であることに加え、施設も必要となるなど、全てが揃わないとできないため難易度は高いが、成功すれば大きい。
- ・6次産業化の支援に当たっての課題は、商品が完成しても、利害関係者が出てきて、販路の開拓や生産の継続が難しくなることだ。また、食品の分野の取り組みを行いたい学生は多いが、農家の方の声が学生まで届いていないのが現状である。

【要望など】

- ・コロナ禍以降、DXや輸出関係、販路開拓の取組に関する勉強会は多いが、特産品に係る取り組みのスタートアップとして、他県の事例を聞くことや、集まって情報交換をするような場が減った気がする。スタートアップの勉強会が、以前のように増えると良いと思う。
- ・生産者と学生の双方で興味があるが、様々な点で噛み合わないところがある。活動に積極的な学生の支援を県全体としてやってもらえるとありがたい。

7 知事まとめ

地域で協働して住民が元気になる取り組みや、多くの人に喜んでもらえる活動は本当に素晴らしいと感じた。これからもさまざまな工夫や努力により、各地域ならではの強みのある特産品を作ってもらいたい。県としてもしっかりと応援をさせてもらう。